

6月の例会報告

テーマ 「終末期における私の意思表示」 県立愛知病院 有吉寛院長
終末期に自分自身へして欲しいこと・して欲しくないことなど、
意思表示書を書くための医学的な勉強会を行いました。

感想文から

終末期にあたって自分自身の意思表示をはっきり決めておいても、病院や家族との関わりなどがあり、自分の意思通りにはなかなかできない現状にあると思われま

す。延命治療を希望しないときに、本日の院長のお話で具体的に

①痛みをとる ②呼吸困難の解消 ③お腹の張りをのぞく ④えも言われぬ体のだるさを取り除く ④に関しては家族との心身のふれあいが大切とのことでした。4項目をはっきり掲げてくださったことは、今後この4項目を基準に担当の主治医と病気の進行にあわせて相談しあえるのではないかと考えます。

今回終末期の治療がより具体的に分かり、私にとってはとても有意義な会でした。(O)

7月の例会報告

テーマ 「終末期における私の意思表示」 岡崎市民病院 石井正大院長
終末期に自分自身へして欲しいこと・して欲しくないことなど、
意思表示書を書くための医学的な勉強会を行いました。

感想文から

遺言は死後に効力が出るが、リビングウィル（終末期における私の意思表示）は生前から効力が出る。「尊厳死を望みます」「延命治療をしないで下さい」と意思表示すれば、そのように受け入れるとのことでした。そしてその前に医師との心の交流が大切とおっしゃいました。先生！！患者はいつも先生と心の交流ができたらと願っているのです。どうぞよろしく願います。

お忙しい中、私たちの質問に対し、器具を用意して丁寧に医療行為を説明していただき、手応えのある例会でした。これも一朝一夕にできることではないことを痛感しました。

また、当日参加された徳島大学医学部付属病院緩和ケア室のカウンセラー黒葛原さんの「病室を訪問し、言葉を交わさなくても、眠っていても、そばに座り同じ時間（50分間）を共有する」という話しには心打たれました。なろうことなら、市民病院、愛知病院にも黒葛原さんのような方がいらっしゃるようになったら、と願うこと切なるものです。

(H)

ビハーラ訪問報告

私たち3人は、新潟県にある長岡西病院の仏教を背景としたビハーラ病棟を訪問しました。エスカレーターで病棟のある5階に着くと、ドアが開いた途端、可愛い玄関とお香の香りが迎えてくれました。案内してくださったのは谷山さんという常勤の仏僧です。常勤ということで「毎日何をしていますか？」と聞くと「世間話です」と言いながら「くずかご論」を話してくださいました。「くずかごの自分に悩みを捨ててもらえばいい。そばにいてだけで、いかに何もしないという治療をするか」ということでした。ここには釈迦菩薩が安置された仏堂があり、ふれあいの場・礼拝、法話などを行う場・時には一人泣ける場として使われているそうです。病院というよりも、我が家の延長のような温い雰囲気、22床だったベッド数がこの6月から27床になったというのも頷ける気がしました。帰りは、正面玄関横にあるドーム型の窓に仏様を描いたステンドグラスの下を通過して出ました。夜間の出入り口でもあり、亡くなられた人を送る玄関でもあるそうです。 ※ビハーラ=休養の場所という意味をもつ (N)

◆報告

- 5 / 1 9 愛知ホスピス研究会 ボランティア講座に参加（2名）
テーマ「ホスピスの現状」 場所：ウィル愛知
- 6 / 1 2 長岡西病院ビハーラ病棟（仏教系ホスピス）訪問（3名）
- 6 / 2 8 南医療生協病院渡辺婦長 訪問 「意思表示書」について



◆ご案内

例会

- 9月21日(金) 10時～12時 岡崎勤労福祉会館
「死を受け入れてどう生きるか④」 講師：寺田正親神父
- 10月13日(土) 10時～12時 岡崎市民病院
「終末期における患者・家族の関わり方」 岡崎市民病院看護婦さんと交流

手縫いの会（毎月第2火曜日）

- 9月11日(火) 10時～12時 県立愛知病院看護相談室
- 10月9日(火) 10時～12時 県立愛知病院看護相談室

つどい（毎月第4水曜日）

患者や家族、遺族の方たちを対象に、何でも話せる場です。ご一緒していただきますのは、愛知大学の木村先生です。この日を覚えていて参加して下さる人が増えてきました。

参加ご希望の方は 橋詰：0564-53-3100 小野：0564-24-8518 までご連絡ください。

- 9月26日(水) 12時半～15時半 場所 橋詰宅 参加費 1,000円
- 10月24日(水) 12時半～15時半 場所 橋詰宅 参加費 1,000円

手縫いの会報告

「手縫いの会」に参加して頂いている方の中には、体の不自由な方もいらっしゃいます。それでもいつも、たくさんのタオルを持ち帰り、雑巾にしたりして毎月届けてくださいます。時にはヘルパーを伴って来てくださったりします。人のお役に立てることを大きな喜びとして。このような優しい心が私たち「手縫いの会」と病院、看護婦さん、そして患者さんとをつなぐ掛け橋になっています。

「手縫いの会」連絡先：服部0564-23-1263：勝川0564-25-6961

- | | | | |
|--------|---------------|-------|--------|
| 6月 12日 | ：シネカバー | 5枚 | → 愛知病院 |
| | ：雑巾 | 60枚 | |
| 6月 16日 | ：清拭布 | 3200枚 | → 国際病院 |
| 7月 4日 | ：ひざ掛け | 18枚 | → 市民病院 |
| 7月 10日 | ：雑巾 | 50枚 | → 愛知病院 |
| | ：枕カバー | 9枚 | |
| 7月 13日 | ：スチール棚用カーテン | 1枚 | → 愛知病院 |
| 7月 17日 | ：雑巾 | 50枚 | → 市民病院 |
| | ：尿器カバー | 10枚 | |
| | ：ペースメーカーの本体入れ | 20枚 | |

以上お届け
しました。

伝言板

日本ホスピス在宅ケア研究会 大阪大会（7月1日）に参加して

横で倒れかけている人を見れば傍らに立つ人は、その人が見知らぬ人でも思わず手を差し出してしまふ。このように弱さには、他者を吸い込む力を持っていると大阪大学の鷺田清一先生はおっしゃった。

倒れるという、その一瞬は、恥も外聞もなく自分の弱さすべてをさらけ出すことになる。そのさらけ出された弱さに、人は近づけられてしまうのだ。力ある者が、力のないものに手を差し伸べるのではなく、思わず引き寄せられてしまう力によって、互いがそのときを過ごす。

「弱さには力がある」初めて聴いた言葉でした。

（橋詰）